



いわいしま通信

祝島小学校創立150周年

祝島小学校が創立150周年を迎え、3月8日に祝島小学校体育館で記念式典が行われました。式典には多くの島民や卒業生の皆さんなど関係者が出席してお祝いをしました。式典の後には餅まきも行われ、大いに盛り上がりました。



記念式典の様子

＜祝島小学校の略歴＞

- 明治8年：創立
- 明治18年：上関尋常高等小学校祝島分校となる
- 明治21年：独立し祝島簡易小学校となる
- 明治25年：祝島小学校となる
- 昭和9年：新校舎完成・移転
- 昭和16年：上関村立祝島国民学校と改称
- 昭和22年：上関村立祝島小学校と改称
- 昭和26年：ルー台風により校舎倒壊
- 昭和28年：新校舎落成式
- 平成元年：屋内運動場完成
- 平成15年：休校式
- 平成17年：開校式
- 平成28年：休校式
- 令和3年：開校式



会場には祝島小の昔の写真も展示

目次

祝島小学校創立150周年	1
祝島小4年ぶりの入学式	1
祝島・記憶の玉手箱	2
会員リレー&読書タイム	4
『植物の宝島』事業	5
会員リレーコラム	6
祝島自由律俳句	7
うっちーさんの観察日記	8
千客万来	10
「島EXPO」に参加します	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12

祝島小学校で4年ぶりの入学式

4月8日、桜の花びらが舞う春の陽ざしの中、祝島小学校で4年ぶりの入学式が行われました。今年の新入生は3名。5年生2名と合わせて、全校児童が5名になりました。入学式には保護者の皆さんや島の方々も出席して新1年生の入学をお祝いしました。

祝島小学校は4月から複式学級になり、1つの教室で2つの学年の授業が行



入学式での記念撮影

われているそうです。人数が増えてちょっと賑やかになった小学校で、のびのびと、そして遅く育てて欲しいですね。

尚、島には来年度以降も入学を予定している子どもがいますので、祝島小学校はしばらくの間は継続できそうです。



「祝島物語」 画・大井しげる

<連載> 祝島・記憶の玉手箱(36)

～ 満100歳、元気の秘訣 ～

語り部:ちーちゃん

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。

今回は、今年で満100歳を迎えたちーちゃんに、その元気の秘訣を伺ってみました。



満100歳を迎えても、まだまだ元気なちーちゃん

司会: 今年なんと100歳になられたそうで、おめでとうございます。

ちーちゃん: ははあ、大正14年生まれじゃけえねえ、今年の3月で満100歳になったんよ。

司会: 100歳で、これだけしっかり歩いて、ちっとも呆けてないというのは、なかなかいないですよ。ちーちゃんが生きてこられた100年の間で、一番心に残っていることってありますか？

ちーちゃん: はあ、特にないねえ、な～んにも考えずに今日まで来たんよ。あはは。

司会: それが長寿の秘訣かも・・・。生まれてから、ずっと祝島におられたんですか？

ちーちゃん: いいや、学校を卒業したら一回外に働きに出たけえ、8年ほどおらだった。14歳の時から大阪に2年、その後金沢に6年の、8年間じゃあ。3月に学校を卒業して、4月にゃあ行ったんじゃけえねえ。

司会: 祝島の女の人は、よう奉公とかに出られてたようですが、ちーちゃんは何の仕事をしてたんでしょう。

ちーちゃん: 酸素を作る会社の事務をやりよったんよ。

司会: へえ～事務員さん。

ちーちゃん: タイプを打ったり。

司会: ほー！キャリアウーマンだったんですね。

ちーちゃん: そうそう、そいじゃが戦争が始まったのがなかなか終わらんで、島に帰ったのが昭和20年の7月じゃ。

司会: 終戦の直前だったんですね。

ちーちゃん: そう、帰ってきたら終戦。よそも混乱せちよったけえ、そのまま島において、だまくらかされて結婚したの。

司会: えっ？騙された？どういうこと？

ちーちゃん: その親がよそから来たひとじゃったけえ、よそに行くんかと思うたんよ。そしたら、ずーっと島におった。

司会: よそに出たかったんですか！？

ちーちゃん: あはは、まあそれはおいちよいて。鍛冶屋をせよった人と結婚せて、それからすぐに鉄工所をやり始めたんよ。

司会: 鍛冶屋と鉄工所って何が違うんですか？

ちーちゃん: 鍛冶屋いうたら、トンカントンカン、カッチン鍛冶屋いね。鉄工所は、旋盤やらボール盤やら使うて船の機械を作ったりせるのいねえ。

司会: なるほど、そうか。そういえば僕も学校の帰りに鍛冶屋に寄って、おじさんが仕事しよるのを見せてもらったことがあるよ。

ちーちゃん: そうそう、子どもらも先生らも、面白がって見たり、寒い折は火に当たって、しゃべっちゃあ帰りよった。

司会: ところで、おじちゃんは戦争には行ってなかったんですか？

ちーちゃん: ありゃあ徴兵検査で引っかけたね。近眼、目が悪かったんよ。

司会: そうだったんですね。おじちゃんが亡くなって、もう何年ですかね？

ちーちゃん: はあ、何年になるかね～。

司会: それにしても100年、健康で長生きする秘訣を教えてくださいませんか。好きな食べ物とか嫌いな食べ物はありますか？

ちーちゃん: 嫌いなものというのはあんまりないが納豆

は食べる。特別好きなものもないが、コーヒーは毎日飲むよ。朝起きたらすぐコーヒーを飲んでから朝の支度をせる。砂糖は入れん。ミルクはちっと入れるけど。たまにハチミツは入れるかねえ。甘いものは滅多に口にせんかねえ。お茶を飲む時でも、菓子は食べる。

司会：梅干しとか、味噌とかは？

ちーちゃん：梅干しは必ず毎朝1つ食べるねえ。らっきょうもよう食べるよ。味噌は、生みそは食べるねえ。炒って食べるかねえ。そういやあ、昔はわざわざ味噌汁を作るというのはなかったんよ。つい味噌を皿に入れて湯をかけちゃー食べよった。みんなそうせよった。

司会：まーにいさあのご飯を作ってあげてるけど、どういう繋がり？甥御さん？

ちーちゃん：弟いね。なんぼ一親戚のもののご飯を作ろう。弟じゃけにしようがないけえ、作りよるんよ。

司会：はあ、そうだったんですね。10歳以上離れているから、てっきり・・・

ちーちゃん：まーにいが、朝6時にゃあ朝ごはんを食べに来るけえね。そりょう食べらしてから、6時半頃にゃーわしは散歩に出て歩きよる。そして、まーには毎日昼便が着くのを見てから、食べに上がってくるんよ。それが11時頃、それで昼ごはん。夕方の4時半にゃあ晩ごはんを食べて、自分かたへ帰るのが日課。

司会：テレビとか見るんですか？

ちーちゃん：テレビはほとんどつけんねえ。その代わりに、ラジオはずっとつけよるんよ。夜は8時頃かねえ、はよ一布団に入って、ラジオを聴きながら寝て、3時頃にゃー目が覚めて、それから5時頃までラジオを聴いちょるんよ。ほいて、やれやれ、まーにいが来るけえ起きようか・・・いう毎日じゃねえ。

司会：いろいろ物知りなのはラジオを聞いているからなんですね。聴いているのはどこの局ですか？

ちーちゃん：ずっとNHK第1放送。それぎり、他の局にゃあ替えんの。ラジオはえい（良い）話をよおするんよ。仏教の話とかねえ。

司会：なるほど～。これも頭がしっかりしている秘訣ですね、きっと。

ちーちゃん：どーじゃろうかねえ、ははは。

司会：そういえば、手先も器用で、いろいろなものを作られてますよね。五円玉手芸とか、折り紙手芸とか・・・



五円玉で作った小槌と簪



端切れの布で作ったネコ

いつ頃から、こうゆうのを作るようになったんですか？

ちーちゃん：親戚の人が手芸キットを送ってきたりして、あれこれ作るようになって、飾ったり、人にあげたり、えっと（たくさん）作ったねえ。

司会：子どもの頃から器用だったんですか？

ちーちゃん：たか坊かたの婆さんが和裁の先生じゃったけえ、紋付やら袴やらいろいろうなあ縫いよったんよ。そりょう子供の時から遊ぶ遊ぶ見ちゃあ縫うことを覚ようった。着物の端切れやろもろうて、見よう見まねで縫物を覚えただけえ、小学3年くらいの時にゃあ縫物もしよったよ。

司会：ところで、話は変わりますが、ちーちゃんは冬でも靴下を履きませんか？夏はともかく、冬は寒くないんですか？

ちーちゃん：子どもの頃からずっと裸足につっかけじゃけえ、なんともないね。

司会：知らず知らず、規則正しい生活、健康的な食事、健康にいいことをして、毎日を過ごしてるってことなんですね。やはり健康で長生きの秘訣はこころにありそうですね。これからもどうぞお元気で！

今日はお話しいただきありがとうございました。

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。今回は、昨年の神舞の時に入会された川尻剛士さんです。著書を紹介する「読書タイム」と併せて書いていただきました。



川尻剛士さん

普段は山口大学で教員をしております。専門は環境教育学で、特に公害問題や地域開発問題を体験した地域社会における教育と人間形成の歴史と現在について研究をしています。ひらたく言えば、公害問題や地域開発問題を体験した地域社会ではどのような教育が行われてきたのか／いるのか、また当該地域社会の人々はどのようにして生きてきたのか／いるのか、ということに関心があります。これまではなかでも水俣病被害地域や、今回ご紹介する本の舞台で核関連施設が集中立地する青森県下北半島の研究を進めてきました。上関や祝島とご縁をいただいたのも、当初はこうした研究上の関心が背景にありましたが、今は上関や祝島のことをとにかくもっと知りたいと願っています。コロナ禍を経て8年ぶりに開催された神舞（昨年8月）を見る機会を得られたことはとても嬉しいことでした。

私自身の出身は岡山県で、父方の祖父母は瀬戸内海（玉野市）の漁師でした。幼い頃から週末には親に連れられて祖父母を訪ね、瀬戸内海の恩恵に与ってきました。サワラやイダコ、ゲタ（舌平目）をたくさん食べた記憶があります。祖父や父（父は公務員でしたが船舶免許を持っていました）が操縦する船の上で、いとこたちと花火を見たことも覚えています。当時は当たり前のことでしたが、今思い返すととても恵まれた日々でした。残されていた祖母も3年ほど前に他界しました。カラオケ好きの祖母は生粋の美空ひばりファンで、葬儀の見送りは「川の流れるように」。今でもこの曲を耳にするとふと祖母のこと、そして祖父

のこと、幼い頃の日々を思い出します。

大学四年生の年末に水俣病と教育をテーマとした卒業論文を提出し、正月に祖父母を訪ねた際、私の大学生活や卒論の話に刺激を受けたのか、突然、祖父母が瀬戸内海での自らの公害体験を語り始めたときのことは忘れられません。水島コンビナートの三菱石油水島製油所での重油流出事故（1974年12月）のことでした。ほとんど自らのことを語らない父も「食卓に上がってくる魚が一年くらいは油臭かった」とポツリ。話は広がり遡って、祖母の生まれた「高島」がこの水島コンビナートの足元だったこともこのとき再認識しました。幼い私にとって「高島」は毎年お墓参りで訪ねなければならない退屈な場所としてのみ記憶されていました。祖母の育ちの風景はライフヒストリー研究の古典と言われる水島を舞台にした『口述の生活史』（1977年）の世界そのものだと気づいたのもこの頃です。大学一年生のときから水俣病に関心を持ち卒論まで書きましたが、自分史が公害・開発問題史に埋め込まれていると実感したのはこのときが初めてだったように思います。そして気づけば、公害・開発問題が自らの研究として考え続けたい「問い」になっていました。

自己紹介はこのくらいにして……。昨年12月に『核開発地域に生きる：下北半島からの問いかけ』



（2024年、同時代社）という本を、私を含む10名の共同研究者らとともに刊行しました。2011年の福島原発事故後、多くの研究者たちは福島に通ってきました。その一方で私たちの研究グループは下北半島に通ってきました。といっ

『核開発地域に生きる：下北半島からの問いかけ』

編者：安藤聡彦・西舘崇・川尻剛士

発行所：同時代社

発行：2024年12月

ても3.11のとき私はまだ高校生で、私自身が下北半島に通い始めたのは2013年、当時は大学2年生でした。福島原発事故の衝撃を受けて原発問題を自分なりに考えてみたいと思っていたことが根っこにはあったように思います。

下北半島では1960年代末から「核半島」化が進展してきました。複数の原子力発電所があることもとより、核燃料サイクル施設がセットされていることがこの地域社会の何よりの特徴ではないかと思えます。本書はこうした下北半島の「核半島」化の歴史と現在のプロセスを、当該地域社会を生きた／生きる「普通の人々」10名の人生（ライフストーリー）の観点から描き出したものです。登場するのは、教師、歯科技工士、郵便局員、消防士、自営業者、それに市民活動家といった人たちで、著名な政

治家や反対運動のリーダーではありません。これらの人々の人生はどこかで上関や祝島、あるいは広く日本社会を生きる人々の人生とも近く、あるいは遠く接しているのではないかと思います。あまり肩肘張らずにまずは「読みもの」として気軽にお手にとっていただき、立場や主張を問わず、一人でも多くの様々な方にお読みいただければと願っております。そして願わくは、本書を日本社会における核開発のあり方をめぐる語り合いのきっかけにいただければ嬉しく思います。お近くの公共図書館への蔵書のリクエストもご検討いただければ大変ありがたいです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

※上関町立図書館には、リクエストして入れていただきました。(by 國弘優子)

『植物の宝島』事業が引き続き令和7年度の助成事業に選定されました

昨年度後期より開始した『植物の宝島』事業が、今年度も日本離島センターの離島人材育成基金助成事業に選定されました。(正式名称は『『植物の宝島』で新たな魅力発見・祝島2』です)これは、審査委員会から昨年度の事業成果が認められ、今年度もさらなる発展が期待できると判断されたものです。

今年度の事業実施項目と大まかなスケジュールをお知らせしますので、会員の皆様には、事業への参加・協力およびアドバイスをよろしくお願いいたします。尚、今年度も講師としてグリーンアドバイザーの内田祐介さんに協力をお願いいたします。

<実施項目>

- ①調査報告書として、島の植物をまとめた冊子を作成する。
- ②植物観察用の山歩きマップを作成する。
(前後期に各1種類)
- ③島内で観察会を開催する。
(春と秋の2回開催予定)
- ④山道に案内板や植物プレートを設置する。
- ⑤島内で報告会を開催する。

<スケジュール>

- ・4月5日(土) 春の植物観察会(実施済み)
- ・8月~9月 山歩きマップ②
「三浦湾周辺」編 制作、発行
- ・8月~10月 案内板、植物プレート製作
- ・10月4日(土) 秋の植物観察会
- ・11月~12月 案内板、植物プレート取付作業
- ・11月~12月 山歩きマップ③
「カタアのため池」編 制作、発行
- ・1月中旬 祝島の植物たち(夏編)制作、発行
- ・2月初旬 島内で報告会開催
- ・2月後半 事業報告書作成、提出



4月5日 春の植物観察会参加者の皆さん

昨年は入会された方が多かったので、今回はもう一人、子供の頃に祝島でよく遊んだという、中野光恵さんにも登場していただきました。



中野光恵さん（トラキチです）

初めまして。昨年入会しました中野光恵（旧姓村田）です。昭和45年祝島生まれ関西育ち現在神戸市在住トリマーとして動物にまみれて働いています。島には両祖父母が住んでいたため子供の頃は夏休みをずっと祝島に帰省して過ごしていました。私と同じような夏の思い出がある方も多いかも。祝島以外の人にも珍しがってもらえるかなと懐かしい夏の日々を思い出してみようと思います。

夏休み突入と同時に父方の祖母が迎えに来てくれ弟と3人新幹線と各駅停車で柳井港まで。港が待ちきれなくて窓から駅名を眺め「通津（つづ）」「由宇（ゆう）」・・・あともう少し！そして港に到着！真っ先に大好きだった定期船「ことしお」のところへダッシュ！甲板でずっと海を眺めたまま到着。島に着くと父方の叔母や母方の祖母がお出迎え。「よう帰ってきたのう」祝島での1ヶ月の始まりです。

朝は井戸の冷たい水で顔を洗い。朝のパンを買いに大津商店へ。帰ると叔母から「魚を取りに来んさい」と電話。走って（子供は元気）浜まで受け取りに。泳ぎに行けるのは10時から。窓から今日はどのくらい海が満ちているか観察（満ちている時が深く

て楽しい）、五右衛門風呂を薪で沸かすのは私の仕事。後ろでは祖母がご飯を炊いているいい香り。昔は午後よく断水していたので午前は大忙し。

10時前には水着を着用してサイレンが鳴ると同時に水中メガネを手に海に走って行きました。満ち潮の時は潜って海の底の石を集めたりうつ伏せに浮かんでずっと魚を眺めたり（すごく流されて焦ったり）、引き潮の時は潮だまりの生き物を眺め毎日2時間飽きもせず海で遊んでいました。

海から帰り井戸水をたらいに汲んで水中メガネや足を洗い、お風呂に入り七輪でまんまんさあ（とうもろこし）を焼き、おにぎりや瓜を食べたら外へ飛び出し島の探索。西方の一番上へ行ってみたり西の浜へ行ったり。ときには山へ登りシラサキや行者様まで行ってしまったり（元気過ぎる！）、たっぷり遊んだあとは母方の祖父母の家へ・・・行く途中に学校で遊び。夕方帰宅する前にまた学校で遊び。なかなか帰ってこない孫に呆れ顔の父方の祖母。食卓にはいつもお魚。茹でたエビ（鯛の餌で甘くて美味しい）エイ（甘辛く煮て）焼いたペラ、麦味噌のお味噌汁。食事が済んだらいつも祖母と親戚のおうちへ。子供たちは浜へ行って海辺の石で遊んだり時折花火をしたり。寝る前には早く明日にならんかな早く泳ぎたいな～とずっと喋っていて早く寝んさいとよく怒られたものです。毎日毎日身体の裏表が分からなくなるまで真っ黒になって遊んでいました。（あれ？勉強は？）



「海の子」(弟と)

いつも泳いでたのは、くにひろさんから真っ直ぐ沖に出た石井の波止のところ。昔はあわびもいたんですよ。

お盆を過ぎると夏休みも終わりに近づき島から去ぬる（帰る）日がやってきます。最後の夜は寂しくて寝付けなくて窓からずっと灯台の灯りを見ていました。沖を通るタンカーの音、波の音、朝が近づくと漁船のエンジンの音・・・祝島の音。

出航するときは父方の祖父が屋根の上、祖母が船着場で手を振ってました。大好きな島、大好きなおじいちゃん、おばちゃん。島の人々。知っている人も知らない人も「また帰りんさい」と声をかけてくれる。初めてきた人にも「また帰りんさい」と声をかけてる。

月日が流れ今は祖母にそっくりになった母が手を振ってくれています。

こんな夏を過ごしていました。昭和50年代、ファミコンが出てくるほんの少し前。子供が外を走り回っていた頃です。

ぜひ皆さんも島へふらりとやってきませんか？子供の頃のように何でも触って匂って五感で楽しんで。夜に耳を澄ましてみてください。車の音が無い静かな波の音、草の音。ゆっくりした時間を自然の中で過ごしてみませんか。祝島に「帰って」来ませんか？

余談ですが祝島ではすごく元気が出るんですよ。島のおばちゃん達もパワフルだし。パワースポットちゃうかと疑ってます・・・。

祝島自由律俳句(16)

このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、その中から何句かを紹介させていただいております。

入り船に春潮の島ほころびぬ
時忘れシーグラス摘む磯遊び
猫の手も借りたし満室花の宿
篠崎 幸恵



連休の再会懐かし同級生
クサフグの産卵間近三浦湾
子供らの昔の遊びケンカボウ
國弘 秀人



はらはらといざ散りゆかん零れ花
島の未来心に花咲く夢をみる
緩（ぬる）い風終活兼ねて衣替え
國弘優子

生ひじき口いっぱい磯の香り
桜咲く心うきうき春来たり
吉原妙子

読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品／作品についてのコメント（あれば）／名前（ペンネーム可）を記入して事務局までお送りください。メールのあて先は haiku@iwaishima.jp です。

下関市の植物公園ではトビの悪行に悩まされてきました。お昼になるとどこからともなくヒョロヒョロと集まってきては、上空から来園者のお弁当を狙うのです。鋭い爪で引っかかれて怪我をした方もいます。それがだんだんエスカレートしてきて、ペットボトルやカメラまでアタックするようになりました。人が手にしているものイコール食べ物という認識なのでしょう。こうなるともう恐怖でしかありません。相手がサルやイノシミみたいな哺乳動物ならまだ対策は施せますが、遙か上空を飛んでいるのですから、もうお手上げでした。藁にもすがる思いで、トビで有名な観光名所もあるH市にそのような事例はあるか、どのような対策を講じればよいのか伺ったところ「我が市にそんな行儀の悪いトビはい



「トビ」

ません！」と怒られちゃった。わ～るかったねっ！まあ、そのようなことがありましたので、祝島でもなるべく開けた場所

では食べ物を出さないようにしています。三浦の山中では、岩に腰を下ろしてザックからオニギリを取り出そうとしたとき、ジグソーパズルのように配置された枝葉の隙間からトビの旋回が見えました。彼らの視力は人の7～8倍ともいわれていますから、隠れているつもりでも油断はできません。ひと口ほおばっては残りをササッとポケットに隠す。そしてまたひと口…の繰り返し。無事に(!?) 昼食を終えてぼちぼち引き返そうとしたとき、昼間でも薄暗い常緑樹林下に一本の大きなキノコがたたずんでいました。地味な色でよく気が付いたものです。でも傘の裏のヒダは白色で、配色がオシャレなこと。それは見たこともない種類で、帰宅後に図鑑などで調べたものの該当種はみつかりませんでした。もっともキノコに関してそれほど知識があるわけでもないので、専門家が見れば「ああ、〇〇だね」なんて話に

なるのかもしれませんが。とにかく渋くて格好良いキノコとの出会いでした。



「謎タケ」

3年間で島のあちこちを歩いてきましたが、キノコの写真は数えるほどしかありません。ただ発生数が少ないわけではない

と思います。こ
図鑑などを片っ端から探しても該当種がみつからなかった謎キノコ。黒色のカサと白色のヒダとの対比が美しい。

かなのですか
ら。植物目線で歩いているから目に留まらずに、スルーしてきたに違いありません。糸のように細かったり、数ミリしかなかったりする種類も多く、目のモードを切り替えないとなかなか見つからないのです。だいたい小さい種類を探するときなんかはナメクジみたいに地面に這いつくばって、数メートルを1時間かけて歩くこともザラですから。ちなみにキノコは植物ではありません。古い図鑑などには隠花植物として載せられていることもありますが、動物界でも植物界でもない、菌界に属するまったく別の生物であり、森の分解者になります。遺伝子的には植物よりもむしろ動物に近い生き物ということが分かっています。名前がついているのが約三千種だけど、一万種はある



「竹林」

今号が発行されるころ、私は竹林にいます。

だろうと言われているので、未知種のほうが遥かに多いわけです。じつは私も過去に島根県の山中で新種を発見しています

(専門機関に同定を依頼して判明しました)。

さて、去年の春のこと。國弘さんから行者堂に向かう竹林内にキヌガサタケが発生するとことを教えていただき、梅雨時期がくるのを楽しみにしていました。キヌガサタケはキノコの女王様として知られ、ニュースにあげればひと



「キヌガサタケ」

ちなみにキヌガサタケ。九州北部の竹林にて。先端のグレバは糞臭がありハエが集まります。発生地は限られ、とても珍しいので会えると嬉しいキノコ。中国では高級食材に。



「キアカダマキヌガサタケ」

山口県内ではもっとも見かけるアカダマキヌガサタケ。マントが短く、タマゴ(幼菌)は赤味を帯びます。グレバはワインの香りで、クワガタムシがよく集まります。

スにあげればひと目見ようと発生地に人が殺到。いわゆるSNS映えするキノコです。しかし、キノコは神出鬼没でどこに出てくるか分からないし(本体は土の中の菌糸)、その年によって発生数も違います。去年は条件が合わなくて残念ながら女王様に会うことは叶いませんでしたが、白いタマゴ(幼菌)をひとつだけ見つけることができました。山口県内で一番よく見られるアカダマキヌガサタケのタマゴは赤色を帯びているので、アカダマではないことだけは分かりましたが、もしかしたらキヌガサタケ似の未知種かもしれない!なんて妄想しながらワクワクしています。島という特殊環境がゆえに。まあ、可能性は低いでしょう

けどね。その白いタマゴは割れていて黄色いゼリーのような中身が飛び出していたので、持ち帰ってもこれ以上の変化はなかったと思います。植物もキノコも自生地探訪はスカの連続です。



「ウスキキヌガサタケ」

絶滅の危機に瀕したウスキキヌガサタケ。県内では岩国市の城山に発生。

この日は竹林で小さな変形菌を発見することができました。数ミリの子実体がびっしり集まって、一見タケに付着したカビにしか見えませんが、超拡大してみるとほら。キノコチックだし、名に菌とつきますが、菌類ではなくアメーバ動物類になります。ややこしいですね。アリの目線でゆっくりじっくり山道を散策したら、また新しい世界がみえてきます。



「変形菌」

美しい変形菌(粘菌)の仲間。アメーバとして這い、キノコみたいな子実体に變形して胞子を飛ばします。写真の子実体の大きさは1ミリほど。

<著者紹介>



内田祐介、通称うっちー。山口県下関市在住。現在は、北九州市立白野江植物公園に勤務。「一緒に楽しむ」をモットーに講演会、園芸講習会、観察会、執筆活動などを行っている。

ブログ『うっちーと植物たち。』

<https://blog.goo.ne.jp/kakusuko0628>

あっという間に季節は巡り、動くと汗ばむほどの初夏となりました。店先では、店主がマメに手入れしている花たちがお客さんを迎えてくれています。

この春先にみなさんの目を楽しませてくれたのは、初めて植えた勿忘草（わすれなぐさ）。上関町に注文した花の苗が、すくすくと大きく伸びて、「こりゃあ何を植えちよるんかね？ほうれん草のようじゃが」「野菜かね？花かね？」と、最初は笑われたものでした。小さな蕾がついて青い小さな花が一斉に開き始めると、「可愛い花や」「初めて見たが」「この青い花あなんゆう花かね」と口々に話題にして、思いのほか長い期間、みなさんに楽しんでいただきました。他には恒例のチューリップをはじめ、アネモネやロベリア、フリージアなど、種類も色も様々、華やかな店先のおかげでみなさんの声も弾んでいました。



勿忘草（わすれなぐさ）



オステオスペルマムとアネモネ

さて、昨年からのお米の値上がりの影響もあるのか、惣菜部では、おかずだけでなく、ご飯とおかずのセットやおにぎりのパックもよく売れるようになりました。常連さんだけでなく、遠くから足を運ばれる店頭買いのお客さんも増えたような気がします。

「きれいに詰めちよるねえ。わし一人じゃったらこりょう買うたら充分じゃが、もう一人おるけえねえ作らにゃいけん」「ほんなら、わしが買おう」と、毎回同じような会話をされるおばちゃんたちは、新3人娘と言いたいメンバー。近所の人のおかずを頼まれて買って帰られるおばちゃんもいれば、「今日はおにぎりがなあ（無い）んかね」と残念そうな大きな独り言が台所まで聞こえてくることも…。一人分のご飯を炊くのがせんないのもようわかるので、うちがご飯を炊いている限り、また、おかずが鍋にある限り、欲しいと言われるお客さんには詰めてあげるようにしています。

時々、本土から来た作業員のためにお弁当を数個注文してくれるおじちゃんが、この前はお店が開く前に、「弁当2つ作ってもらえるかの？」と注文にられました。いつもの感じで「11時過ぎにはできるよ」と応えて、取りに来てもらったのですが、後日談を店主が聞いてきました。どうやら、母の日だから、たまには奥さんに楽をさせてあげようと思いついたおじちゃんがお弁当を頼まれたという話。なんて優しい旦那さんでしょう～なんだか微笑ましくて・・・思わず拍手してしまいました。

昨年の5月の連休は、すでに夏のような暑さで、アイスクリームが売れすぎて足りなくなるほどでしたが、今年はそこまで暑くもなくちょうどいい陽気だったせいも、アイスクリームの売れ行きはぼちぼち。じつは今の売れ筋は、ボン菓子。おばちゃんたちにとっても懐かしいようで、わたしたちも子どもの頃から「パンパン菓子」と呼んでいたお米を膨らませたほんのり甘いお菓子です。店主もわたしも普通にお菓子として食べた記憶しかありませんが、「お茶をかけて食べる」と言うおばちゃんもいます。



只今ヒット中のボン菓子

へえ〜と思ってちょっと調べてみたら、びっくりするような事実を見つけました。お米と砂糖を入れて、あの『ぱーん』という爆音とともに山のような量のポン菓子を作られる機械！それを造ったのは、なんと今年、御年99歳の女性だったのです。終戦直後、20歳の女性が「子どもたちにお腹いっぱい食べさせたい」と願って造ったのがポン菓子機だったそうです。令和の米騒動とも言われる今、お米に関わった新たな事実に感動したわたしです。今はポン菓子を仕入れています、ポン菓子機が欲しくなったと言ったら店主は買ってくれそうに思いますが・・・はて？

くにひろストアは、この5月で丸8年となりました。この間、島の人口は100人くらい減って260人ちょっと。買い物に来られるお客さんもどんどん減っているように感じます。歩いてくるのがようやく。普段、押し車を押してくるお客さんは、雨が降ったら傘を差してまでは歩いて来れませ



押し車でお買い物

ん。配達する頻度は高くなっているような・・・店主は、あっちへ走りこっちへ走り、遠い家にはバイクで配達しています。今後お店の形も少しずつ変わっていくかもしれません。お客さんが楽しんで商品を選べるお店が目標でしたが、最近では決まった人が決まったものを欲しがるようになってきたので、予約注文、そして配達するという形に切り替えたほうがいいのかねえと相談中です。なんにしても、喜ぶ顔が見たいのが、二人の願いです。

大阪で開催されるイベント「島EXPO」に参加します

日本離島センターが主催して主要都市で開催する「しまづくりキャラバン」。今年は「2025大阪・関西万博」に合わせて、万博会期中の9月に大阪で開催されます。内容も従来の食品事業者向けの展示会「島の逸品ブース」に加え、東京で開催される「アイランダー」のような全国の離島が集まるイベントとして「島EXPO—五感で楽しむ島々の彩典」が開催されます。

祝島ネット21では、以前から東京以外のどこかでイベント出展したいと考えていましたので、今回大阪で開催される「島EXPO」に参加し、祝島のPRを行うことにしました。イベントの概要は以下の通りです。
※尚、現在祝島ブースの説明員3名が決まっていますが、あと1名か2名募集していますので、対応可能な方（祝島ネット21会員または祝島出身者）は事務局までご連絡ください。

◎イベント名：しまづくりキャラバン

◎主催：公益財団法人日本離島センター

◎開催日時：2025年9月4日（木）～7日（日）

・「島の逸品ブース」（食品事業者向け展示会）・・・9月4日（木）、5日（金）

・「島EXPO」（一般向け展示会）・・・9月6日（土）、7日（日）

◎会場：インテックス大阪（大阪市住之江区南港北1-5-102）

・「島の逸品ブース」は4・5号館（「フードストアソリューションズ2025」会場内）

・「島EXPO」は6号館B（「食彩日本！うまいもんまつり2025」会場内）

◎交通アクセス：

大阪メトロ 中央線 コスモスクエア駅より徒歩約9分

大阪メトロ 南港ポートタウン線（ニュートラム） 中心頭駅より徒歩約5分



お知らせ & 募集

■2025年度の役員が決まりました

2025年度の役員が以下の通り決定いたしました。1年間よろしくお願いたします。

◎会長：黒磯達則 ◎副会長：吉原信一郎 ◎事務局長：國弘秀人
◎会計：國弘優子 ◎監査：坂本正幸、石山泰人

■海外向け番組『CYCLE AROUND JAPAN』のお知らせ

NHK WORLD JAPAN（海外向け放送）で3月に放映された番組『CYCLE AROUND JAPAN』に祝島が登場しました。タイトルは「Yamaguchi - Where Kindness is King」です。岩国から周南を自転車で旅する番組で、祝島の他に、周防大島、平郡島などが登場します。現在、下記の番組サイトで視聴することができますので、ぜひご覧ください。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/2066076/>



NHK World JAPANのWebサイトより

■映画『地理学者と島』の上映会開催協力者の募集について

原発建設に反対し闘ってきた祝島島民たちの暮らしを、フランス人地理学者フィリップ・ペルティエが取材したドキュメンタリー映画『地理学者と島』（2019年、フランス、監督：クリスティーヌ・ブティエ）。2020年に日本全国で上映会が開催される予定でしたが、残念なことにコロナ禍のため中止になってしまいました。しかし、多くの人に観てもらいたいと、今秋再び全国各地での上映会を企画する実行委員会が立ち上げられる予定です。上映会の開催にご協力いただける方は國弘までご連絡をお願いします。

※予告編はYoutubeでご覧いただけます。 <https://www.youtube.com/watch?v=RjalXR6nvc>

編集後記

いつも皆さんが楽しみにされている「記憶の玉手箱」。このコーナーに今まで何度も登場された「祝島の生き字引」ちーちゃんが、この3月になんと100歳を迎えられました。今回の「記憶の玉手箱」では、今でも元気に動き回られているちーちゃんの長寿と元気の秘訣を掲載しましたので、ぜひ参考になさってください。そして、今回は「会員リレーコラム」に昨年新加入された2名の会員さんに登場していただきました。嬉しいことに昨年は新たに会員になられた方が多かったので、年3回の発行では紹介が間に合わないため、2名同時に掲載させていただきました。

さて、現在開催中の「2025大阪・関西万博」、何かと話題になっていますが、この万博開催に合わせて、日本離島センターが「島EXPO」というイベントを開催します。11ページの記事にも書きましたが、祝島ネット21も祝島のPRのために参加申し込みをしました。会場のインテックス大阪は万博会場のある夢洲の隣の咲洲にあります。お時間のある方は9月6日・7日にぜひご来場下さい。会場でお待ちしていますね。

「いわいしま通信」次号は10月頃に発行予定です。どうぞお楽しみに！

（編集長：國弘秀人）

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。



定期船「いわい」とクルーズ客船「ガンツウ」

祝島ネット21会報「いわいしま通信」第76号

発行日：2025年6月2日 （頒価400円）

発行者：祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>